

# サ変名詞を後部要素とする「二字漢語＋ 二字漢語」型複合名詞における アクセント句分割の生起要因

渡 邊 ゆ か り

## 1. は じ め に

日本語の複合名詞においては、複数の語が結合する際、「景気（ケ<sub>一</sub>ギ）＋対策（タ<sub>一</sub>イサク）→景気対策（ケ<sub>一</sub>ギ/タ<sub>一</sub>イサク）」のように、それぞれの語のアクセント型が消失し、一つのアクセント句からなる複合語独自のアクセント型を形成する傾向にある<sup>1</sup>。しかし、その一方で、「営業（エ<sub>一</sub>ギョー）＋開始（カ<sub>一</sub>イシ）→営業開始（エ<sub>一</sub>ギョウ/カ<sub>一</sub>イシ）」のように、アクセント句が複合語独自のアクセント型に移行せず、複合前のアクセント型が保持されるものも存在する。

この現象について、先行研究（窪蘭1995など）により、前部要素と後部要素が「①並立関係にある」時、「②格関係にある」時に、それぞれの要素の複合前のアクセント型が保持される傾向にあることが明らかにされている。しかしながら、複合要素がこれらの条件を満たしていれば、複合前の個々の要素のアクセント型が常に保持されるわけではなく、「中途（チュ<sub>一</sub>ト）半端（ハ<sub>一</sub>ンパ）→中途半端（チュ<sub>一</sub>ト/ハ<sub>一</sub>ンパ）（①の例）」「記憶（キ<sub>一</sub>オク）喪失（ソ<sub>一</sub>ーシツ）→記憶喪失（キ<sub>一</sub>オク/ソ<sub>一</sub>ーシツ）（②の例）」のように複合前の個々の要素のアクセント型が保持されていないものも存在する。

窪蘭（1995）は、このような現象を慣用化によるものとしているが、その事を裏付ける根拠は示していない。また、清水・橋本（1994）は、後部要素に「対策」「暴落」「成功」といったサ変名詞を取る複合名詞について、後部要素が表すことからのアスペクト解釈がアクセント句分割の有無を左右する

---

1 本稿では、高アクセントの部分を囲み線で囲んだ。また、CAR が適用されている（アクセント句分割が生じていない）場合には、前部要素と後部要素の間に「/」を挿入し、CAR が阻止されている（アクセント句分割が生じている）場合には、前部要素と後部要素の間に「//」を挿入した。

としているが、アクセント句分割の有無についての判定やアスペクトの分類方法に疑問が残る。

従って、本研究は、これらの先行研究の問題点を踏まえ、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞を対象に、アクセント句分割がどのような場合にどのような要因により生じるのかを明らかにすることを目的とする。

次節では、本研究の分析に先立ち、本分析と関係する先行研究を取り上げる。

## 2. 先行研究

### 2.1. 窪菌 (1995)

窪菌 (1995) が述べるように、多くの場合、「複合語は一つのアクセント単位にまとまろうとする (p. 58)」。

窪菌はこの規則を、「複合語アクセント規則 (Compound Accent Rule: CAR)」と称している。この規則は、日本語の音声規則の一つとして広く知られている。しかしながら、その一方で、窪菌の指摘するように、このような「アクセント規則の適用を受けず、その結果、単一のアクセント句にまとまらなくなるものも少なからず観察される (窪菌: p. 61)」。

そして、その場合として、窪菌は、次頁の表 1 の①-⑨を挙げている。なお、表 1 は、窪菌 (pp. 69-71) の内容に基づき稿者が作成したものである。

また、窪菌は、これらについて「いずれも複合語が通常持っている『修飾語+主要部』という意味構造ではな (p. 71)」く、「2 要素の意味が単に結合しただけの句構造に近い意味構造を持って (pp. 71-72)」おり、「意味的な一語性が低いために、音韻的にも一語にまとまりきれないものと解釈できる (p. 72)」としている。

確かに、表 1 の①②④⑤⑥⑦⑨は、「修飾語+主要部」という意味構造を持たない。しかしながら、③の「政府//要人」「会社//社長」や⑧の「次期//大統領」「初代//会長」は、前部要素が後部要素の意味を限定しており、「修飾語+主要部」という意味構造にないとは言い切れない。

さらに、窪菌は、表 1 の①-⑨の制約を緩和する条件として次頁の表 2 を挙げている。なお、表 2 は、窪菌 (p. 74) の内容に基づき稿者が作成したものである。

表 2 の条件はいずれも前部要素と後部要素の意味関係とは異なる観点の条

表1 CAR が阻止される場合

場 合	例
①対比を表す接頭辞	各大学 (カク//ダイガク) 某銀行 (ボ一//ギンコ一)
②並列構造 <sup>2</sup>	一夫多妻 (イクッパ//タサイ) 公平中立 (コヘイ//チュ一リツ) 一進一退 (イツシン//イツタイ)
③組織名+役職名	政府要人 (セイフ//ヨ一ジン) 会社社長 (カイシャ//シャチョー)
④人名	山口百恵 (ヤマグチ//モモエ) 三浦友和 (ミウラ//トモカズ)
⑤チーム名	ガンバ大阪 (ガンバ//オオサカ) サンフレッチェ広島 (サンフレッチェ//ヒロシマ)
⑥氏名+地位・役職名	湯川博士 (ユカワ//ハカセ) 加藤教授 (カト一//キョ一ジユ)
⑦地域名+地域限定名詞	九州南部 (キョーシュ一//ナンブ) 日本全国 (ニッポン//ゼンコク)
⑧順番名詞+地位・役職名	次期大統領 (ジキ//ダイト一リョー) 初代会長 (シヨダイ//カイチョー)
⑨格関係	音声多重 (オンセイ//タジユ一) 新旧交代 (シンキョ一//コ一タイ)

表2 表1の①-⑨の CAR 阻止を緩和する条件

条 件	例
①構成要素の語種：和語や外来語は CAR を受けやすい。	行方不明 (ユクエ/アメー) 首位争い (シュイ/アラソイ) マーガレットサッチャー (マ一ガレット/サッチャー)
②複合語全体の慣用度：慣用度が高い時	中途半端 (チュ一ト/ハンパ) 聖徳太子 (シヨ一トク/タイシ) 世代交代 (セダイ/コ一タイ)
③発話スタイル：ぞんざいな発音、発話速度の速い発音の時	
④語順：漢字+カタカナのチーム名は CAR を受けやすい。逆にカタカナ+漢字の人名は CAR を受けやすい。	鹿島アントラーズ (カシマ/アントラーズ) 関西ホテル (カンサイ/ホテル) アントニオ猪木 (アントニオ/イノキ)

2 表1の「並列構造」の「並列」は本稿の「並立」に相当する。表1では出典の表記に準じ、「並列」という表記を用いた。

件である。言語使用に関するあらゆる点で相対的に規範性が弱まることが一般に知られている③は別とし、①②④については、なぜそのような傾向が存在するのかについての意味的な理由が内在する可能性がある。窪蘭も④でチーム名と人名の場合で逆の傾向を示すことを受け「この問題が単にカタカナと漢字の配列順だけの問題ではないことを示唆している（p. 77）」と分析しているがこれ以上の言及は行っていない。

また、②の慣用度については、窪蘭の言う慣用度が社会におけるその語の使用頻度や認知度の高さで測ることが可能なものなのか、あるいは、認知言語学で言うところの合成性や分析性と関係するものなのか定かではない。

## 2.2. 清水・橋本（1994）

清水・橋本（1994）は、窪蘭が CAR の適用を受けない時として挙げた表 1 の①－⑨の中の⑨すなわち格関係にあるもののうち、「名詞＋サ変名詞」を対象に、どのような場合に CAR が適用され、どのような場合に CAR が阻止されるのかを分析している。なお、清水・橋本は、CAR が適用される場合を「アクセント句分割なし」と呼び、CAR が阻止される場合を「アクセント句分割あり」と呼んでいる。

清水・橋本は、まず、サ変名詞のアスペクトを以下の表 3 に挙げる 6 つに分類し、次に、アスペクト解釈になじまないサ変名詞を次頁の表 4 のように分類した上で、アクセント句分割とアスペクトの関係を表 5 のように示している。なお、表 3 に挙げたアスペクトは、清水・橋本（1993）において、表

表 3 アスペクトに基づくサ変名詞の分類（清水・橋本1994の表3）

分 類	単 語 例
State	潜在、共通、共有、共同
Action	噴火、刺激
Activity	開発、建設、整備、処理
Achievement	着手、決着、解決、到着、成立、成功、悪化、安定
Accomplishment	設立、廃止、実施、停止
Achievement & state	入院、休学

※ Activity：ある時区間における Action の集合。

※ Achievement：ある時点における Action と State の変化の複合概念。

※ Accomplishment：Activity とその動作の結果である Achievement の複合概念。

※ Achievement & state：結果残存現象。

表4 その他のサ変名詞の分類（清水・橋本1994の表4）

分 類	単 語 例
Nominal	意味、位置、意識、旅行
Subjective	感動、絶望、満足、退屈

表5 アクセント句分割の有無とアスペクトの関係（清水・橋本1994の表5）

分割の有無	ア ス ペ ク ト
分割なし	Nominal
分割あり・なし両様	Action、Activity、Achievement
分割あり	State、Accomplishment、Achievement & state、Subjective

3の直後の※に記したように定義されている。

しかしながら、表3の6種のアスペクトの分類基準は不明瞭である。また、日本語の場合、通常、アスペクトの意味は、主に本動詞に後続する「ている」「た」「始める」「終わる」などの補助動詞や助動詞により示されることから、サ変名詞そのものにアスペクト解釈を求めることにも疑問が残る。

### 2.3. 佐々木・吉田（2002）

佐々木・吉田（2002）は、『新聞記事読み上げコーパス JNAS』（日本音響学会）中の2語からなる複合名詞のうち、前部要素と後部要素が「主語＋動詞」「主語＋形容詞」「目的語＋動詞」の関係にあるものについて、形態素解析辞書に基づく係り受け構造と CAR 阻止の割合を調査している。その結果は、次頁の表6の通りである。なお、表中の（d）（e）（f）は格関係の種類を表しており、各々「主語＋動詞」「主語＋形容詞」「目的語＋動詞」に相当する。

佐々木・吉田は、表6の結果に基づき、「90%近くの割合で、CAR が阻止されている係り受けの型がある一方で、一番サンプル数の多い {普通名詞＋サ変名詞} における CAR の阻止率が約50%にとどまっており、格関係という要因だけで CAR の適用、不適用を決めてしまっているのか少々疑問が残る（p. 14）」と述べている。佐々木・吉田の調査の結果、サ変名詞を後部要素とする複合名詞については、前部要素が人名の場合を除き、CAR の阻止率が45%－58%と決して高くないことがうかがえる。しかし、どのような要因が CAR の適用、不適用に関与しているのかについてこれ以上の分析は行っていない。

表 6 係り受け構造と CAR 阻止の割合（佐々木・吉田2002の表 7）

格関係	係り受けの型の構成要素	総数	阻止数	割合
(d)、(f)	普通名詞＋サ変名詞	429	215	50%
(d)、(f)	組織名＋サ変名詞	33	19	58%
(d)、(f)	人名＋サ変名詞	26	24	92%
(d)、(f)	地名＋サ変名詞	48	25	52%
(d)、(f)	サ変名詞＋サ変名詞	161	97	45%
(e)	普通名詞＋形容動詞語幹	42	37	88%
(e)	サ変名詞＋形容詞語幹	27	24	89%

以上、本節では、本研究と関わりの深い先行研究を取り上げると共にその問題点を指摘してきた。次節では、これらの問題点を踏まえた上で、本研究の方法を提示する。

### 3. 研 究 方 法

本研究では、先行研究の問題点を踏まえ、どのような要因がアクセント句分割の有無に関与しているのかを調べるにあたり、『RWCP 検索・要約用ニュース音声データベース』（以下、RWCP-SP99 と略称）<sup>3</sup>から、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語＋二字漢語」型複合名詞を収集した。その際、後部要素がサ変名詞か否かの判定は、電子辞書『スーパー大辞林』における「(名)スル」という表示の有無に従った。また、読み上げ原稿において、二字漢語と二字漢語の間に「・」が挿入されているものは、「・」の部分にポーズが生じやすく一語性が希薄であるので考察対象から除外した。

コーパスとして使用した、RWCP-SP99 は、ニュース放送用の原稿を、以下の 6 名の話者が読み上げたものであり<sup>4</sup>、原稿の分量は、各話者、約40件（うち複数の話者共通原稿11件）約60分に相当する。

---

3 本データベースは、技術研究組合 新情報処理開発機構 RWCP (Real World Computing Partnership) 知的資源 WG が平成10年度に実施した「検索・要約用音声データベースの構築」により作成されたものであり、同機関の提供による。詳細は、次の URL を参照されたい。 <http://research.nii.ac.jp/src/RWCP-SP99.html>

4 原稿は専門の放送記者に依頼し、実際の出来事を基に模擬的に作成したものである。各話者は、下読み後、生放送をイメージして一度だけ読み上げている。

- m1 男性プロナレータ (30代)
- m2 男性プロアナウンサ (40代)
- m3 男性プロアナウンサ (30代)
- f1 女性プロナレータ (30代)
- f2 女性プロアナウンサ (40代)
- f4 女性プロアナウンサ (30代)

本データベースから考察対象とする複合名詞を収集するに際し、前部要素と後部要素の語種を漢語に限定したのは、語種の相違が CAR 適用の有無に及ぼす影響を排除するためである。

また、前部要素、後部要素のいずれかに、「人名」「団体名」「国名」「地名」といった固有名詞が用いられているもの（「日銀」などの略称も含む）も排除した。これは、普通名詞、固有名詞の相違が CAR 適用の有無に及ぼす影響を排除するためである。ただし、二国を表す「日中」「日英」については、考察対象の中に含めた。

さらに、「単独で用いられる際のアクセントが平板式の前部要素」と「単独で用いられる際のアクセントが起伏式の頭高型の後部要素」が結合した複合名詞については、CAR が適用されているか否かの判別がつかないので、考察対象から除外した<sup>5</sup>。各要素が単独で用いられる際のアクセント型は、電子辞書『スーパー大辞林』におけるアクセント表示に従った。

このような方法で収集したサ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞は492トークン存在した<sup>6</sup>。

次節からは、このような方法を用いて収集した、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞を対象に、どのような要因がアクセント句分割の有無に関与しているのかについて分析していく。

---

5 例えば、「金融支援（き<sup>ん</sup>ゆう<sup>し</sup>えん）」は、単独で使用する時の「金融（き<sup>ん</sup>ゆう<sup>し</sup>）」が平板式アクセントであり、単独で使用する時の「支援（<sup>し</sup>えん）」が起伏式の頭高型アクセントであるので、これらが結合した複合名詞については、二語の結合により CAR が適用されているのか否かを判別できない。従って、このようなものは考察対象から除外した。このような複合名詞は、117トークン存在した。

6 「三年連続」のような「数量名詞+助数詞」を構成要素とするものは、数量名詞の如何に関わらず、同形式の構成要素として扱った。

## 4. 分 析 結 果

### 4.1. 複合名詞全体の意味に対する前部要素と後部要素の貢献の仕方

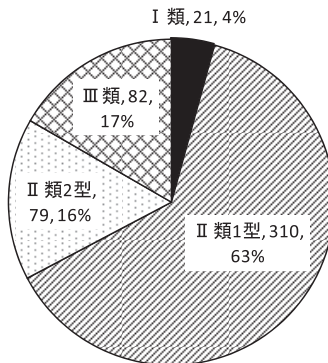
RWCP-SP99 中に存在した、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞は、前部要素と後部要素が複合名詞全体の意味にどのように貢献しているかという点から以下のⅠ－Ⅲに分けられる。

#### 〈複合名詞全体の意味に対する前部要素と後部要素の貢献の仕方〉

- Ⅰ. 前部要素と後部要素が並立関係にあるもの
- Ⅱ. 前部要素と後部要素が格関係にあるもの
  - 1. [前部要素+後部要素] が個々の要素から構成される一つの事態を表すもの
  - 2. [前部要素+後部要素] がⅡ類1型の事態のメトニミー<sup>7</sup>的拡張物を表すもの
- Ⅲ. その他

Ⅰ類、Ⅱ類1型、Ⅱ類2型、Ⅲ類のトークン<sup>8</sup>値の比率は、次のグラフ1の通りである。

グラフ1 Ⅰ類、Ⅱ類1型、Ⅱ類2型、Ⅲ類のトークン値の比率



7 メトニミーは換喩とも呼ばれる。代表的なものは、趣意と媒体が隣接関係にあるものであるが、これ以外の何らかの意味的関連性が認められるものも、この種の比喩に分類される。

8 本稿では、延べ数を表すのに、「トークン」という語を数量名詞として用いる。



グラフ 1 より、トークン値の比率は、Ⅱ類 1 型が約63%と最も高いことがわかる。

以下、Ⅰ類、Ⅱ類 1 型、Ⅱ類 2 型、Ⅲ類の順に分析結果を示していく。

## 4.2. Ⅰ類—前部要素と後部要素が並立関係にあるもの—

RWCP-SP99 から 3 節で記載した方法を用い収集した、Ⅰ類の複合名詞は、以下の表 7 の通りである。( ) 内の数値は、トークン値を表しており、「:」の左側は CAR が適用されている場合のトークン値を、右側は CAR が阻止されている場合のトークン値を示す。

表 7 前部要素と後部要素が並立関係にある場合

運輸通信 (1:0)、吸収合併 (1:5)、増収増益 (2:6)、調査報告 (2:3)、入陰 <sup>マ</sup> 通院 (0:1)
--

表 7 より、「運輸通信」を除く 4 語において、CAR が阻止されている場合の方がトークン値が高いことがわかる。トークン単位の CAR 阻止率は、21 トークン<sup>9</sup>中15 トークンで約71%である。また、タイプ<sup>9</sup>単位では、5 タイプ中、CAR 適用が 1 タイプ、CAR 適用・阻止両様が 3 タイプ、CAR 阻止が 1 タイプで、CAR 適用・阻止両様を CAR 阻止に含めない場合の CAR 阻止率は、20%であるが、CAR 適用・阻止両様を CAR 阻止に含めた場合の阻止率は、80%である。

この結果は、前部要素と後部要素が並立構造の場合に CAR が阻止されるとする窪園の分析と大きく矛盾してはいない。しかしながら、表 7 に見るように、前部要素と後部要素が並立関係にあっても、常に、CAR が阻止されるわけではなく、若干の揺れも存在する。この揺れの原因については、後に 5 節で考察する。

## 4.3. Ⅱ類—前部要素と後部要素が格関係にあるもの—

### 4.3.1. Ⅱ類 1 型

ここでは、RWCP-SP99 から 3 節で記載した方法を用い収集した、Ⅱ類 1 型の複合名詞について取り上げる。この型は前部要素と後部要素が格関係にあ

---

9 本稿では、異なり数を表すのに、「タイプ」という語を数量名詞として用いる。

り、個々の要素から構成される一つの事態を表すものである。なお、ここで挙げる格関係には、主格述格関係、対格述格関係のみならず、場を表す格や様態を表す格など、必須度の低い格と述格との関係も含めている。

前部要素と後部要素の格関係の種類別に見たトークン単位の CAR 阻止率は、以下の表 8 の通りである。なお、表 8 中の、前部要素の a-m は、その意を表す前部要素のトークン値順に配列してある。また、表 8 中の〈動作〉は動作もしくは動作の持続を、〈変化〉は変化もしくは変化後の結果持続を表すものとする。

表 8 格関係の種類別に見たトークン単位の CAR 阻止率

後部 前部	〈動作〉 CAR 適用:CAR 阻止 (CAR 阻止率)	〈変化〉 CAR 適用:CAR 阻止 (CAR 阻止率)	トークン 合計
a. 対象	115:29 (20%)	—	144
b. 様態	44:1 (2%)	1:0 (0%)	46
c. 主体	9:4 (31%)	14:18 (56%)	45
d. 側面	13:0 (0%)	—	13
e. 方向	11:1 (8%)	1:0 (0%)	13
f. 時間	2:11 (85%)	—	13
g. 場	10:0 (0%)	2:0 (0%)	12
h. 相手	10:0 (0%)	—	10
i. 目的	5:0 (0%)	—	5
j. 起点	2:0 (0%)	1:0 (0%)	3
k. 時期	0:1 (100%)	0:2 (100%)	3
l. 手段	2:0 (0%)	—	2
m. 基盤	0:1 (100%)	—	1
トークン合計	271	39	310

以下、「a. 対象」を前部要素とする複合名詞から順にどのようなものが CAR 適用を受けやすく、どのようなものが CAR 阻止を受けやすいのかを見ていく。

#### 「a. 対象」を前部要素とする複合名詞

表 8 にあるように「a. 対象」を前部要素とする複合名詞は、144トークンで、

いずれも〈動作〉を表す名詞を後部要素とする。この後部要素を、CAR 適用の複合名詞に用いられるもの、CAR 適用・阻止両様の複合名詞に用いられるもの、CAR 阻止の複合名詞に用いられるものの三つに分類した結果が以下の表 9 に当たる。

表 9 「a. 対象」を前部要素とする複合名詞の後部要素と CAR 適用の有無

CAR 適用の有無	後 部 要 素
CAR 適用	案内、移動、運用、援助、改革、改善、開発、開放、合併、管理、希望、強化、供給、経営、計画、交換、工事、購入、再建、需要、償還、譲渡、申請、調査、調整、展開、転換、凍結、発行、表明、負担、変更、貿易、報告、保証、保全、輸出、予定
CAR 適用・阻止両様	開設、緩和、構築、削減、調達、提案、提供
CAR 阻止	開始、改定、拡大、再開、実施、増発、促進、代行、達成、停止、派遣、養成、抑制

表 9 の CAR 阻止グループには、前部要素が表す活動の進行具合を制御することを表すものが多く含まれている。表 9 の CAR 適用、CAR 適用・阻止両様、CAR 阻止の各グループに、前部要素が表す活動の進行具合を制御することを表す複合名詞としてどのようなものが存在するかを調べたところ、以下の表10の通りであった<sup>10</sup>。

表10 前部要素が表す活動の進行具合を制御することを表す複合名詞

CAR 適用の有無	複 合 名 詞 例
CAR 適用	(計 0 タイプ)
CAR 適用・阻止両様	(計 0 タイプ)
CAR 阻止	営業開始、協議再開、交渉再開、凍結実施、開放促進、目標達成、操業停止、輸入抑制 (計 8 タイプ)

表10より、この種の複合名詞は、CAR 阻止グループにしか登場していないことがわかる。従って、このような意味構造を表す複合名詞は、CAR が阻止

10 なお、これらの複合名詞のうち、「目標達成」の前部要素「目標」は、単独では活動を表さないが、複合名詞の前部要素としてはメトニミー的に「目標として掲げている活動」を表している。

されやすい、すなわち、アクセント句分割が生じやすいものと考えられる。  
この理由については、後に5節で考察する。

表9のCAR阻止グループには、このような意味を表す後部要素以外に、「改定」「拡大」「増発」「代行」「派遣」「養成」が含まれている。このうち、「改定」「拡大」「増発」は、次の(1)－(3)のように前部要素が表す数値・数量の変更を表すのに用いられており、「代行」は、次の(4)のように前部要素が表す役割を担当することを表すのに用いられており、「派遣」は、(5)のように前部要素が表すものの移動を表すのに用いられており、「養成」は、(6)のように前部要素が表すものの生産を表すのに用いられている。

- (1) 日本人従業員の上限//改定には応じられない意向です。  
(RWCP-SP99: f1n2012の0024)
- (2) この席で提出した、緊急共同要望書の主な要望事項は、(中略) ■  
地方自治体の災害復旧資金融資制度への国の助成//拡大 ■国債の  
増発による復興財源の確保などです。  
(RWCP-SP99: m3n2091の0017)
- (3) 個人消費の低迷や国債//増発に伴う長期金利の上昇で、  
(RWCP-SP99: m1n2039の0066)
- (4) 辻義文・日産社長に会長//代行を依頼、  
(RWCP-SP99: f2n2184の0020)
- (5) 役員会への代表//派遣を可能にしたことは  
(RWCP-SP99: f1n2002の0012)
- (6) 指針では(中略)民間企業の情報網や人材//養成、中小企業問題  
での協力などが盛り込まれています。  
(RWCP-SP99: f4n2080の0014)

CAR適用、CAR適用・阻止両様、CAR阻止の各グループには、これらの意を表す複合名詞として以下の表11に挙げるものが存在した。なお、表11中の各セル(0タイプのセルを除く)に記載したタイプ値右横の%は、「役割担当」「数値・数量変更」「生産」「対象移動」の各グループのタイプ値合計を分母とした場合の、CAR適用、CAR適用・阻止両様、CAR阻止のタイプ値の割合を示している。

表11 〈役割担当〉〈数値・数量変更〉〈生産〉〈対象移動〉を表す複合名詞

CAR 適用の有無 事態の種類	CAR 適用	CAR 適用・阻止両様	CAR 阻止
役割担当 (計1タイプ)	(計0タイプ)	(計0タイプ)	会長代行 (計1タイプ、100%)
数値・数量変更 (計5タイプ)	(計0タイプ)	規制緩和、人員削減 (計2タイプ、40%)	上限改定、助成拡大、 国債増発 (計3タイプ、60%)
生産 (計9タイプ)	経済開発、産業開発、 商品開発、財政再建、 公債発行、債券発行 (計6タイプ、67%)	口座開設、設備構築 (計2タイプ、22%)	人材養成 (計1タイプ、11%)
対象移動 (計13タイプ)	資本移動、資金援助、 資金供給、部品供給、 部品購入、国債償還、 事業譲渡、穀物貿易、 部品輸出 (計9タイプ、69%)	資金調達、企画提案、 情報提供 (計3タイプ、23%)	代表派遣 (計1タイプ、8%)

表11より、1タイプしか存在しなかった「役割担当」は別とし、その他の「数値・数量変更」「生産」「対象移動」のうちでは、「数値・数量変更」を表すものが、それ以外のものより、CAR 阻止を受けやすい、すなわち、アクセント句分割が生じやすいことがわかる。

この理由についても、後に5節で考察する。

#### 「b. 様態」を前部要素とする複合名詞

「b. 様態」を前部要素とする複合名詞は、46トークンで、このうち、〈動作〉を表す後部要素を取るものは45トークン、〈変化〉を表す後部要素を取るものは1トークンであった。CAR 阻止が生じていたのは、〈動作〉を表す後部要素を取る次の(7) 1例のみである。

(7) 類似会社と相互//比較しながら査定を行ない、

(RWCP-SP99: f4n2073の0008)

ただし、(7) の「相互」は複合名詞の前部要素ではなく、副詞「相互に」の「に」が省略された形が後続する「比較し」という動詞を修飾していると

解釈することも可能である<sup>11</sup>。従って、(7) では、「相互比較（し）」が「副詞＋動詞」という形の動詞句として解釈されたため CAR が阻止された可能性がある。このような例を除けば、「b. 様態」を前部要素とする複合名詞はいずれも CAR の適用を受けている。

#### 「c. 主体」を前部要素とする複合名詞

「c. 主体」を前部要素とする複合名詞は、45トークンで、このうち〈動作〉を表す後部要素を取るものが13トークン、〈変化〉を表す後部要素を取るものが32トークン存在した。これらの後部要素を CAR 適用の複合名詞に用いられるもの、CAR 適用・阻止両様の複合名詞に用いられるもの、CAR 阻止の複合名詞に用いられるものの三つに分類したものが以下の表12に当たる。

表12 〈主体〉を前部要素とする複合名詞の後部要素と CAR 適用の有無

CAR 適用の有無	後 部 要 素	
CAR 適用	〈動作〉	回転、協力、交渉、総括、調達、同意、努力、紛争
	〈変化〉	安定、拡大、恐慌、成長、破壊、発展、不足
CAR 適用・阻止両様	〈動作〉	
	〈変化〉	
CAR 阻止	〈動作〉	合同、固有、承認、流入
	〈変化〉	悪化、安定、回復、拡大、急増、急騰、減速、交代、後退、上昇、増大、低迷

以下、まず、〈動作〉を表す後部要素を取る複合名詞について、どのようなものが CAR 阻止を受けやすいかを見ていくと、第一に、複合名詞の前部要素が、その複合名詞の被連体修飾語に当たる後接名詞の所属先を表し、複合名詞の後部要素が、この後接名詞の様態を表す場合に CAR 阻止が生じていた。次の (8) (9) がこれに該当する。

(8) 日中//合同の調査で明らかになりました。

(RWCP-SP99: m3n2093の0004)

11 同じ「相互」を前部要素とする複合語であっても、「副詞＋動詞」という形の動詞句としての解釈を適用できない次の (i) では CAR が適用されている。

(i) 生命保険、損害保険会社に子会社形式で相互/参入を認めるほか、

(RWCP-SP99: m2n2181の0004)

(9) 各国//固有の経済規制が新たな課題

(RWCP-SP99: f2n2193の0016)

第二に、複合名詞を連体修飾する語が、複合名詞の後部要素が表す動作の主格以外の必須補語としても機能している場合に CAR 阻止が生じていた。次の (10) (11) がこの例に当たる。

(10) 政府はメキシコ支援策の議会//承認をあきらめることを明らかにしました。  
(RWCP-SP99: f4n2069の0003)

(11) 17日の市場は、昨日までの、マルクへの資金//流入の傾向が加速し、  
(RWCP-SP99: m2n2131の0009)

以上、後部要素が、〈動作〉を表すものについて、どのような場合に、CAR 阻止が生じているかを見てきた。次に、〈変化〉を表す後部要素を取る複合名詞について、どのようなものが CAR 阻止を受けやすいかを見ていく。

表12の CAR 阻止グループの後部要素には、前部要素の役割が他者に移動することを表すもの、前部要素が表すものの活性度が変化することを表すもの、前部要素が表すものの数値・数量が変化することを表すものの3種類が存在する。CAR 適用、CAR 適用・阻止両様、CAR 阻止の各グループには、この意を表す後部要素を取る複合名詞として以下の表13に挙げるものが存在した。

表13 〈役割移動〉〈活性度の変化〉〈数値・数量の変化〉を表す複合名詞

CAR 適用の有無 事態の種類	CAR 適用	CAR 適用・阻止両様	CAR 阻止
役割移動 (計1タイプ)	(計0タイプ)	(計0タイプ)	主役交代 (計1タイプ、100%)
活性度の変化 (計6タイプ)	経済安定 (計1タイプ、17%)	(計0タイプ)	通貨安定、景気回復、 成長減速、景気後退、 景気低迷 (計5タイプ、83%)
数値・数量の変化 (計8タイプ)	利益拡大 (計1タイプ、13%)	(計0タイプ)	収益悪化、輸出拡大、 純益急増、物価急騰、 価格上昇、物価上昇、 輸出増大 (計7タイプ、88%)

なお、表13中の各セル（0タイプのセルを除く）に記載したタイプ値右横の％は、「役割移動」「活性度の変化」「数値・数量の変化」各グループのタイプ値合計を分母とした場合の、CAR 適用、CAR 適用・阻止両様、CAR 阻止のタイプ値の割合を示している。

表13より、1タイプしか存在しなかった〈役割移動〉は別とし、〈活性度の変化〉〈数値・数量の変化〉を表す複合名詞は、CAR が阻止されやすい、すなわち、アクセント句分割が生じやすいことがわかる。この理由については、後に5節で考察する。

#### 「d. 側面」-「m. 基盤」を前部要素とする複合名詞

「d. 側面」-「m. 基盤」を前部要素とする複合名詞のうち CAR 阻止が含まれていたグループは、前部要素が「e. 方向」「f. 時間」「k. 時期」「m. 基盤」の四つである。以下、この4グループのそれぞれにおいて、どのような複合名詞が CAR 阻止を受けているのかを見ていく。

まず、「e. 方向」グループの複合名詞には、〈動作〉を表す後部要素を取るものとして、「入札参加」1トークン、「下方修正」1トークン、「会長就任」1トークン、「設備投資」6トークン、「海外流出」1トークン、「内部留保」1トークン、「海外旅行」1トークンが存在した。また、〈変化〉を表す後部要素を取るものとして、「減少傾向」1トークンが存在した。これらのうち CAR 阻止を受けていたのは誰かが前部要素が表す役割を担当することを表す「会長就任」のみである。次の（12）はこの複合名詞が登場した文例に当たる。

（12） 5月の総会後の会長//就任を打診しています。

（RWCP-SP99: f2n2184の0021）

次に、「f. 時間」グループの複合名詞には、〈動作〉を表す後部要素を取るものとして、「一時休業」1トークン、「一時猶予」1トークンが存在した。また、〈変化〉を表す後部要素を取るものとして、「X 年連続」10トークン、「X 代連続」1トークン（X には特定の数字が入る）が存在した。これらのうち、CAR 阻止を受けていたのは、後部要素が何らかの事態の存続を表している「X 年連続」「X 代連続」のみであった。次の（13）（14）はこの複合名詞が登場した文例に当たる。



- (13) 549億6,100万ドルと4年//連続で増加し、  
(RWCP-SP99: m1n2049の0026)
- (14) 三菱グループ出身者としては故大槻文平会長以来、四代//連続になります。  
(RWCP-SP99: f4n2062の0011)

次に、「k. 時期」グループの複合名詞には、〈動作〉を表す後部要素を取るものとして、「早期解決」1トークン、「早期復興」1トークンが存在した。また、〈変化〉を表す後部要素を取るものとして、「早期復旧」1トークンが存在した。これらはいずれも **CAR** 阻止を受けている。次の (15)－(17) はこの複合名詞が登場した文例に当たる。

- (15) 強く早期//解決をせまりました。 (RWCP-SP99: f1n2024の0019)
- (16) 「阪神大震災の被害からの早期//復旧こそが使命」として  
(RWCP-SP99: f4n2077の0006)
- (17) 財政の悪化を覚悟のうえで、早期//復興に全力を挙げる必要があると判断し、  
(RWCP-SP99: m1n2053の0008)

最後に、「m. 基盤」グループの複合名詞には、〈動作〉を表す後部要素を取る「債権回収」1トークンのみが存在し、**CAR** 阻止を受けていた。次の (18) は、この複合名詞が登場した文例に当たる。

- (18) これまでの調査から、債権//回収が難しく、  
(RWCP-SP99: m3n2099の0011)

(18) の複合名詞は、前部要素が表すものを拠り所に、誰かに貸し付けた物を回収することを現している。しかしながら、同一の知的意味を有する「債権を回収する」という動詞句も存在することから、この動詞句と同様の意味構造にある「a. 対象」グループの複合名詞として位置づけることも可能である。また、その場合、後部要素の「回収」が、ものの移動を表すことから、表11の「対象移動」グループの複合名詞として位置づけることができる。

以上、「e. 方向」「f. 時間」「k. 時期」「m. 基盤」の4グループの複合名詞についてどのようなものが **CAR** 阻止を受けているかを見てきた。**CAR** 阻止を受けた複合名詞がなぜ **CAR** 阻止を受けたのか、すなわち、なぜアクセシ

ト句分割が生じたのかについては、後に 5 節で考察する。

#### 4.3.2. II 類 2 型

II 類 2 型は、前部要素と後部要素が格関係にありながら、[前部要素＋後部要素] が個々の要素から構成される事態を表すのではなく、この事態からのメトニミー的拡張物を表しているものである。例えば、「開発計画」であれば、「開発を計画する」という事態により生じた「開発計画」という生産物を表している。以下の表14は、この II 類 2 型の複合名詞例である。なお、表14中の「定期預金<sup>a</sup>」「定期預金<sup>b</sup>」は、文脈における意味の相違に基づき、二つのカテゴリーに分けた。

表14 II 類 2 型の複合名詞

意味カテゴリー	複 合 名 詞 例
構造・様態	上昇傾向、消費傾向、改善傾向、増加傾向、会派構成、役員構成、予算編成
所 有 物	定期預金 <sup>a</sup>
数量・損益	一般会計、単純計算、財政支出、営業収入、定期昇給、個人消費、財政負担、費用負担、当期利益
制度・体制	土地鑑定、金融規制、経済規制、景品規制、競争制限、定額貯金、郵便貯金、規準認証、安全保障、定期預金 <sup>b</sup>
団 体	欧州連合
伝 達 内 容	参入要求、春闘要求
場 面	記者会見、首脳会談、党首会談、市民生活、社会生活
未 来 図	開発計画、行動計画、再建計画、事業計画、自主計画

これらについては、いずれも CAR が適用されている。

#### 4.4. III 類—その他—

III 類は、前部要素と後部要素が並立関係にも格関係にもないものである。次頁の表15はこの類の複合名詞例である。

後部要素は、後部要素に「する」を付加した動詞の表す動作と関連する事物を表している。また、前部要素は、この事物の種類を特定する機能を有している。

上記のうち CAR が阻止されているのは「各種規制」のみである。「各種規

表15 Ⅲ類の複合名詞

意味カテゴリー	複 合 名 詞 例
結 果	交渉結果、調査結果
構造・様態	因果関係、協力関係、通商関係、日米関係、友好関係、世界経済
所 有 物	携帯電話、銀行免許、貯蓄預金
数量・損益	銀行勘定、信託勘定、最高記録、特別損失、貿易統計
制度・体制	労働慣行、各種規制、検証規定、投資協定、特別協定、借款契約、外貨準備、普通預金
団 体	上部組織
伝 達 内 容	中間報告、統一要求、同一要求
未 来 図	基本計画、経済計画、採用計画、当初計画、復興計画、統合構想、中期展望、長期展望、当初予想

制」における「各種」は、窪蘭が CAR 阻止を引き起こす接頭辞として挙げた表1の①の「各」と同様、この類の他の前部要素とは異なり、単に後部要素の範囲を限定するのみで、後部要素の種類の特徴を表す機能は有していない。「各種規制」において、CAR が阻止されたのは、「各種」が持つこのような機能制限に起因すると考えられる。

## 5. 考 察

### 5.1. I 類

以上、前節では、RWCP-SP99 中に存在した、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞を対象に、どのようなものが CAR 適用を受けやすく、どのようなものが CAR 阻止を受けやすいのかを見てきた。

その結果、まず「I 類. 前部要素と後部要素が並立関係にあるもの」「II 類 1 型. 前部要素と後部要素が格関係にあり、[前部要素+後部要素]が個々の要素から構成される事態を表すもの」「II 類 2 型. 前部要素と後部要素が格関係にあり、[前部要素+後部要素]がII類1型の事態のメトニミー的拡張物を表すもの」「Ⅲ類. その他」のうちでは、I 類が最も CAR 阻止を受けやすく、続いてII類1型が CAR 阻止を受けやすく、II類2型とⅢ類は、基本的に CAR が適用されることを見た。

そもそも前部要素と後部要素の結合に伴い CAR が適用されるということは、個々の要素の結合体が、完全に語としての資格を有し、カテゴリー化された事物の名称として機能していることを意味する。また、反対に、CAR が

阻止されているということは、前部要素と後部要素の結合体が、語として不完全であり、カテゴリー化された事物の名称として機能しておらず、〈動作〉〈変化〉とその関与物が分化した事態として叙述されていることを意味する。

この点を踏まえ、Ⅰ類、Ⅱ類 1 型、Ⅱ類 2 型、Ⅲ類における CAR 適用の有無についての理由を考えると、まずⅠ類において CAR が阻止される傾向にあるのは、同等の資格を持つ二つの事態から構成されているため、一つの種類の事物としてカテゴリー化することが難しいことに起因すると考えられる。ただし、前部要素と後部要素の間に並立関係が認められるからといって常に CAR が阻止されるわけではない。RWCP-SP99 には、次の (19)－(22) のように CAR が適用されているものも存在した。

- (19) 製造、建設、運輸/通信、小売業など、従業員五人以上の企業三万三千社を対象に、(RWCP-SP99: f4n2067の0004)
- (20) 信用組合への支援形態は、これまで、別の金融機関に吸収/合併されるか、事業を譲渡して解散するかのどちらかでしたが、(RWCP-SP99: m2n2153の0031)
- (21) 昨年夏の猛暑などの影響で、いずれも増収/増益となり、(RWCP-SP99: m2n2139の0005)
- (22) 35分野についての日本市場の規制の現状を調査/報告しており、(RWCP-SP99: m1n2155の0023、f4n2155の0022)

これらについては、以下に述べる理由により、いずれもカテゴリー名称として解釈することが可能である。

まず、(19) の「運輸通信」については、確かに「運輸」「通信」という二つの並立する事態を表しているが、同時に、我々の社会において「製造」「建設」「小売」と同様、業種を分類する上でのカテゴリー名としても定着している。

従って、業種名としての定着度の高さにより CAR 適用が生じているものと考えられる。

次に、(20)－(22) の複合名詞は、前部要素が後部要素の種類を限定していると解釈することも可能である。具体的に述べると、(20) の「吸収合併」の前部要素「吸収」は、「新設合併」の「新設」と対比される「合併」形態を表し、「合併」の種類を特定していると解釈することが可能である。また、

(21) の「増収増益」の前部要素「増収」も、「減収増益」の「減収」と対比される「増益」形態を表し、「増益」の種類を特定していると解釈することが可能である。さらに、(22) の「調査報告」の前部要素「調査」についても、後部要素の「報告」が何に基づくものなのか、何の内容のものなのかを表すことで、「報告」の種類を限定していると解釈することができる。

従って、(20)－(22) の複合名詞についても、後部要素の下位カテゴリー名を表すものとして CAR が適用されたのではないかと考えられる。

## 5.2. II 類 1 型

次に、II 類 1 型における CAR 適用の有無についての理由を考察する。4.3 節で示した調査により、II 類 1 型については、主に、複合名詞が以下の①－④の意味を表す場合に、CAR 阻止が生じやすいことが明らかとなった。

- ① 前部要素の表す活動の進行具合を制御すること
- ② 前部要素の表すものの数値・数量を変更すること
- ③ 前部要素の表すものの活性度が変化すること
- ④ 前部要素の表すものの数値・数量が変化すること

これら①－④の事態において〈動作〉の対象や〈変化〉の主体となっているのは、厳密には、前部要素が表すもののアスペクトや数値・数量や活性度といった付随的側面である。従って、このような何かの付随的側面に対する〈動作〉や何かの付随的側面の〈変化〉は、一つのカテゴリーとして認識されにくく、〈動作〉〈変化〉とその関与物が分化した事態として叙述される傾向にあるとすることができる。

では、なぜ、何かの付随的側面に対する〈動作〉や何かの付随的側面の〈変化〉は、カテゴリー化されにくいのであろうか。

我々は、必要に応じ、我々を取り巻く世界を種種のカテゴリーに細分化し、これに名前を付け、コミュニケーションを行っている。Rosh (1978) は、このカテゴリー化の原則の一つとして「認知的負荷の軽減<sup>12)</sup>」を挙げている。

---

12 Rosh は、カテゴリー化の目的の一つとして以下を挙げている。

On the other hand, one purpose of categorization is to reduce the infinite differences among stimuli to behaviorally and cognitively usable proportions. It is

我々は、必要に応じて、ある種の類似性が認められる対象を、同一のカテゴリーに属するものとして認め、別の対象と区別するために、名付け行為を行う。ただし、このような名付け行為は、我々が自らの所属するコミュニティにおいて他のメンバーと相互交渉を行いながら生活する上での必要性に依存する。つまり、我々は、我々を取り巻く世界を必要以上に細分化し、名付け行為を行うのではなく、生活における必要性に応じて名付け行為を行うことで認知的負荷を軽減しているのである。

この原則に従えば、文中においてある事態を提示する際、その事態をカテゴリー化して捉え、CAR 適用を受けた複合名詞として提示するのか、それとも、CAR を適用せず、〈動作〉〈変化〉とその関与物に分化した事態として叙述するのかについての選択は、その事態に対する我々のカテゴリー化の必要度に依存していることになる。

では、我々はどのような事態をカテゴリー化の必要性の高いものとして認識しているのだろうか。

このような事態としては、「A. 我々の所属コミュニティもしくは特定の位相において平素より必要とされている活動」や、「B. 我々の所属コミュニティもしくは特定の位相にとって重大な意味を持つ社会現象」を挙げることができる。

従って、カテゴリー化の原則に照らし、付随的側面に対する〈動作〉や付随的側面の〈変化〉を表す複合名詞において CAR が阻止されやすい、すなわち、アクセント句分割が生じやすい理由を説明するのであれば、この種の〈動作〉や〈変化〉は、変則的、臨時的、流動的なものとして描かれることが多く、先の A や B として位置付けることが難しいからだとすることができる。

4 節では、先の①－④の事態を表す複合名詞以外にも、「代表派遣」「人材養成」「会長代行」「主役交代」「会長就任」「X 年連続」「X 代連続」「早期解決」「早期復興」「早期復旧」「債権回収」が CAR 阻止を受けているを見た。これらについても、A や B を表すものとして認識することが困難であったり、コンテクストの影響により A や B を表すものとして認識することが阻害されていたりするために CAR 阻止が生じているものと考えられる。

---

to the organism's advantage not to differentiate one stimulus from others when that differentiation is irrelevant to the purposes at hand. (p. 29)

また、これ以外の「日中合同」「各国固有」「議會承認」「資本流入」については、4.3.1節で挙げた統語的環境が影響している可能性もある。この点については今後の研究課題としたい。

以上、ここでは、特に、カテゴリー化という主体の認識的働きに着目し、Ⅱ類1型の複合名詞における CAR 適用の有無についての理由を考察してきた。窪菌が CAR 阻止を緩和する条件として挙げた慣用化も、本質的には、カテゴリー化という主体の認識的働きの反映として捉えることが可能なのではないかと考えられる。

### 5.3. Ⅱ類2型

次に、Ⅱ類2型において CAR が適用される傾向にある理由について考察する。この種の複合名詞は、4節で述べたように、前部要素と後部要素の間に格関係は認められるものの、複合名詞全体としては、Ⅱ類1型の事態からのメトニミー的拡張物を表す。従って、このようなメトニミー的拡張物は、後部要素が表す〈動作〉〈変化〉と前部要素が表す関与物が分化した事態とは異なり、カテゴリーとして機能しているので、CAR が適用される。

### 5.4. Ⅲ類

最後に、Ⅲ類において CAR が適用される傾向にある理由について考察する。この種の複合名詞は、前節で述べたように、後部要素は、後部要素に「する」を付加した動詞の表す動作と関連する事物を表しており、前部要素は、この事物の種類を特定する機能を有している。従って、この場合も、複合名詞は、カテゴリーを表すものとして、CAR 適用を受ける。ただし、「各種」を前部要素とするものについては、「各種」が単に後部要素が表す事物の範囲を限定するのみで、後部要素の種類を特定する機能を持たず、後部要素が表す事物の下位カテゴリーを表してはいないので、CAR は適用されない。

## 6. 今 後 の 課 題

以上、本稿においては、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞におけるアクセント句分割の生起要因について RWCP-SP99 から収集したデータに基づき考察してきた。その結果、サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」型複合名詞におけるアクセント句分割という現象は、主に「Ⅰ類. 前部要素と後部要素が並立関係にあるもの」と「Ⅱ類1型.

前部要素と後部要素が格関係にあり、「前部要素＋後部要素」が個々の要素から構成される一つの事態を表すもの」において生じやすいことが確認された。また、カテゴリー化の必要性に対する我々の認識がアクセント句分割の有無に関与していることが示唆された。

今後は、本調査において得られた結果が共通語としての一般的傾向としてみなせるか否かを検証するために、他のコーパスに対しても同様の調査を試みたい。

### 参 考 文 献

- 窪園晴夫（1987）「日本語複合語の意味構造と韻律構造」南山大学編『アカデミア 文学・語学編』43 pp. 25-62
- 窪園晴夫（1995）『語形成と音韻構造』くろしお出版
- 佐々木啓友・吉田利信（2002）「複合名詞に対する複合語アクセント規則」電子情報通信学会編『電子情報通信学会技術研究報告.SP、音声』101（603）pp. 9-15
- 清水徹・橋本和夫（1993）「アスペクト遷移モデルの提案」情報処理学会編『情報処理学会全国大会講演論文集 第46回平成5年前期(3)』pp. 91-92
- 清水徹・橋本和夫（1994）「アスペクト解釈に基づく複合語のアクセント句分割」情報処理学会編『情報処理学会全国大会講演論文集 第48回平成6年前期(3)』pp. 165-166
- ローレル・J. プリントン、エリザベス・C. トラウゴット（著）、日野資成（訳）（2009）『語彙化と言語変化』九州大学出版会（原著 Brinton, Laurel. J. & Elizabeth Closs Traugott（2005）*Lexicalization and Language Change*, Cambridge University）
- Rosh, Eleanor.（1978）“Principles of Categorization.” Rosh, Eleanor. & Barbara. B. Lloyd（Eds.）*Cognition and Categorization*, Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum pp. 27-48